

令和2年度 学校経営計画に対する評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 書くことを基本に自らの考えを整理し、深く思考することで論理的思考力及び批判的思考力を育成し、課題発見・解決能力を身につけ生きる力を育成する。その際には、主体的・対話的で深い学びを実現する様々な手法を活用する。	① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業の中に導入するとともに、オンライン授業も活用し授業力の向上を図る。	教務課 各教科	アクティブ・ラーニングやディスカッションについては、一定の学習効果を感じている生徒が見られる。また、反転授業のノウハウは本校にはあるので、更に発展させていく下地はある。	【満足度指標】(生徒) アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにオンライン授業を活用して、生徒の学習効果が高まった。	アクティブ・ラーニングやディスカッションさらにオンライン授業により学習効果が高まった(a 強く + b やや)と感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。	教務課 各教科	「思考を必要とする発問」とするための発問の工夫や、生徒の活動の中で「表現する場面」の設定を、積極的に進めている。	【努力指標】(教員) 各授業で生徒の発表の場面や教師とのやりとりの場面を多く設定し、生徒の言語活動の活性化を図る。	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面(a多く+b時々)設定している割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	家庭学習時間を着実に伸ばしているが、平日自宅学習2時間を超える生徒の割合はまだまだである。いずれの学年も、朝学習や宿題と関連させることにより、家庭学習の充実を図る必要がある。	【成果指標】(生徒) 質および量ともに充実した家庭学習の習慣が確立されている。	家庭学習に積極的に取り組み、十分に確保できたと考えている生徒が、 A 90%以上 B 75%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	各学年	【1年】 思考する朝学習と漢字学習の実施で、国語の「読む」「書いて表現する」力に結びつけたい。また数学は問題集からの小テスト→再テスト→学習会の流れで基本的な学力を向上させたい。 【2年】 「思考の時間」を含めた昨年度の活動によって、主体的に朝学習に取り組む姿勢は確立している。今年度は共通テストも見据えて、理系・文系それぞれに応じた科目・内容を設定して、授業との効果的な連動を実践している。 【3年】 進路実現のために各教科が精選した学習内容を、コースの特性を踏まえて用意する。特に、基礎学力の確認と充実を図る時間として利用する。	【満足度指標】(生徒) 生徒自身が積極的に朝学習に取り組む、学力や教養が身についたことを実感している。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考	
2 個別面談や学習活動を通じたきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	①	進路指導課 学年 教科	卒業時の進路達成を意識した、高い志望を掲げさせる方策が奏功し、全学年で高い数値を更新している。今後もこの取組を継続しつつ、その志望の実現のための能動的な学習習慣の確立について積極的に働きかけていく。 3年では4年前の進路志望指導の変革以来、高い志を掲げ、進路結果につなげていく生徒が年々増加している。	【満足度指標】(生徒) 進路学習や面談などの進路指導を通して、5教科に対する学習意欲が高まり、学力が向上する。	【1・2年】9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 80%以上 【3年】9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 90人以上 B 70人以上 C 50人以上 D 50人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月の進路志望調査の結果で判断する。	
	②	進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年 教科	現1年生:家庭学習の習慣を確立させながら基礎学力の定着を図る必要がある。 現2年生:国英数の総合力で近年の本校の平均値を上回る。全ての層においてさらに力をつけることにより、過去の高学力学年を超えていくことが期待できる。	【成果指標】(生徒) 基礎学力と応用力を身につける。	1,2年生の学力試験で国語、数学、英語の各教科の全国偏差値が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で判断する。
	③			【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学を目標とした生徒の育成と、それに見合った学力をつける。	1,2年生の国語・数学・英語の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1、2年 11月総合学力テストの結果で判断する。	
	④			【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学への合格者を増やす。	金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 15人以上 B 10人以上 C 5人以上 D 5人未満 国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上 難関私立大学合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する 年度末に評価する 年度末に評価する	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
3 部活動や生徒会活動の活性化とともに、地域行事への積極的参加を通して地域貢献に努める中で、視野を広げつつチャレンジ精神やレジリエンスの涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者にPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	総務課	挨拶運動への参加保護者数が全生徒の約6割であり、学校行事、PTA行事への参加呼びかけに工夫が必要である。さらに今年には休校措置に伴い、前期の行事や取り組みが相次ぎ中止になっている。安全に取り組みができるようになった際に、積極的に来校いただけるよう企画・呼びかけを工夫する。	【成果指標】(保護者) 多くの保護者が学校行事等に関心をもち、積極的に参加している。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が3回以上の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	データ量が増え、最新の情報に更新されていないページが見受けられる。各課・学年に該当ページを周知し、更新手続きを積極的にしてもらうことで新しい情報の提供に努めたい。	【成果指標】(教員) 各課、学年等からの最新情報が集約され、速やかにホームページ上に掲載される。	ホームページ上の更新回数が A 100回以上 B 80回以上 C 60回以上 D 40回未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図ることで、生徒のチャレンジ精神の向上とレジリエンスの獲得を目指す。	生徒課	様々な状況の中で、中途退部者が10%弱発生している。各顧問と協力し、中途退部者防止策や生徒に対して他の部への再入部の支援体制を行う必要がある。	【成果指標】(生徒) 生徒が加入した部活動を年間継続している。また、転部をした生徒も活発に活動している。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。
	④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催の内容を充実させ、近隣商業施設・小中学校でのポスター掲示などの広報活動を活発にすることで、地域と連携を目指す。	生徒課	土日開催ということで、土曜日に本校で開催する1日目の来場者数が増加すると見込まれる。また、日曜日の県立音楽堂への来場者は保護者が中心となる見込みである。	【成果指標】(明倫祭来場) 地域への広報活動と、内容の充実により、1日目の小中学生と地域住民の来場者数を増やす。	1日目の来場者数のうち小中学生・地域住民が A 330人以上 B 300人以上 C 270人以上 D 230人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月に評価する。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示など地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神と主体性の涵養を図る。外に出る機会は制限されるが、それでもできる範囲で活動していく。	図書課	地域の保育園に読み聞かせに行ったり、『放課後子ども教室』で小学生に本の読み聞かせを行ったりした。地域と連携した活動は評価も高く、一昨年度より1回行事を増やすなど生徒の自信と主体性を高めることにつながっている。	【成果指標】(生徒) 行動が制限される中でも、地域と連携した図書委員会活動において、生徒が積極的に活動し情報を発信した。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間6～7回 B 年間5～6回 C 年間4～5回 D 年間4回未満 ※休校・自粛の現状を考慮して数値を設定した	Dの場合は、改善策を検討。	年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりとできる人間の育成を図る。	生徒課各学年	保護者や全職員による登校指導や、有志の生徒による挨拶運動により、挨拶をする環境が生まれ、生徒は自然と挨拶を行うようになってきている。しかし、しっかりと声を出せる生徒が少ない。	【努力指標】(生徒) 登校時や校内で出会った人に対して、積極的にしっかりと声を出して挨拶をする生徒が増えている。	朝の挨拶運動で協力していただくで生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、進んで自分からしっかりと声を出し挨拶できた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことで規範意識を育成する。	生徒課各学年	生徒の規範意識は高いものの、僅かではあるが、頭髮の加工や制服の不適切な着用で規律を守れていない生徒がいる。	【努力指標】(生徒) 規律を遵守し、自ら身なりを整える生徒が増えている。	制服を意識的に正しく整えている生徒の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課各学年	規範意識自体は高いが、イヤホン着用や並列走行などに違反意識が薄い。細かな指導と啓発活動が急務である。	【成果指標】(生徒) 自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する生徒が増えている。	交通ルール(自転車運転でイヤホン着用や並列走行をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 学校内外のボランティア活動への積極的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課各学年	全校で取り組んでいる校外清掃や部単位での校外活動を行っており、今後もこうした機会を通じ地域貢献意識を高める。	【成果指標】(生徒) ボランティア活動を通して地域貢献できていることを感じとり、積極的に活動に取り組んでいる。	ボランティア活動に、積極的に参加した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 40%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室各学年	生徒は全体的に落ち着いた生活をしているが、人とかわることを苦手とする生徒が増えており、良好な人間関係を築くための手立てを必要としている。	【成果指標】(生徒) 生徒がクラスや部活動に居場所を見出し、学校生活が楽しいと感じる。	学校生活が楽しいと感じる生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室生徒課各学年	いじめ及び心的支援を必要とする生徒への対応について職員の情報共有や連携の体制は取れている。一方、長期欠席の生徒の対応については、一層の情報共有と連携を図り丁寧に取り組む必要がある。	【努力指標】(教員) 各種調査や担任との情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかりと把握し適切な対処をしている。	生徒の変化に対して a(素早く対処し、解決に至った)、b(素早く察知し、対応することができた)の割合が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑦ 歯科検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	保健環境課	昨年度、歯科検診の結果で要精検者175名中、受診者数は91名で51%に留まっている。生徒には個別指導、保護者には受診勧告書で医療機関への受診を勧めているが、歯科については受診率が高まらない。	【成果指標】(生徒) 医療機関の受診を勧められた生徒が自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合を高める。	歯科検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が A 65%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 45%未満	Dの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。
	⑧ 図書委員による図書便りや本の紹介の作成・発行などの図書案内や各学年団と連携した一斉読書や読書タイムといった読書指導によって、読書に親しみ習慣を身に付けさせる。	図書課	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が、1年生の朝読書実施期に比べると格段に少なくなっている。これは自発的に読書をしようという生徒が少ないことを表している。「読みたい本がない」という意見も特に1年生から聞かれた。また、他校に比して授業での図書館利用回数が少なく、授業に関連づけた貸出が非常に少ないことも事実として存在する。	【成果指標】(生徒) 読書に親しむ生徒が増え、図書館利用が増えている。授業に関連した図書の展示などによって学習と読書に関連づけることで、来館・貸出が増加する。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 4.0冊以上 B 3.5冊以上 C 3.0冊以上 D 3.0冊未満 ※休校期間を考慮して数値を設定した	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
5 教職員の資 質や指導力 の向上を図る とともに、多忙 化の改善に取 り組む。	① 業務負担の軽減や時間管理 の改善などにより、職員が多 忙化改善を進める	副校長 教頭	部活動指導や分掌業務などで、時間外 勤務が80時間を超える教職員が1ヶ月 あたりの平均で3.6人、そのうち100時間 を超える教職員が1.1人となっている。	【成果指標】(教職員) 時間外勤務が80時間を超 える教職員が0になる。	時間外勤務が80時間を超える教職員の月平均の 人数が A 0人 B 1.0人未満 C 2.0人未満 D 3.0人以上	CまたはDの 場合は、改善 策を検討す る。	勤務時間記 録により年度 末に評価す る。